

佐藤義亮生誕140年
記念企画展

新潮社 の

装幀展

平成30年

4月8日(日)~7月8日(日)
新潮社記念文学館

- 開館時間 午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 休館日 月曜日(4月23日・30日は開館)
- 観覧料 大人(高校生以上)300円 小中学生150円
※ 団体割引あり、仙北市民無料
- 住所 〒014-0311秋田県仙北市角館町田町上丁23
- 電話 0187(43)3333(仙北市学習資料館共通)
- 主催 仙北市・仙北市教育委員会
- 協力 株式会社 新潮社



佐藤義亮生誕140年記念企画展 新潮社の装幀展

2018年は新潮社創業者佐藤義亮(ぎりょう)の生誕140年にあたります。義亮は秋田県仙北市角館町の出身で、大正時代より故郷への自社出版物の寄贈を始め、それは現在まで続いています。本展では義亮の生誕140年を記念し、本を手にするときの最初の入口である装幀をテーマに取り上げます。創業から現在まで刊行された本の中から当館所蔵の約50点をご紹介します。

佐藤義亮が社長をつとめた時代(1897-1946)に、新潮社から出版された本から約10点を紹介。

ダンヌンツィオ『死の勝利』(1913.1) (写真1)

竹久夢二『三味線草』(1915.9) (写真2)

ポール・クローデル『聖ジュヌヴィエヴ』(限定1000部) (1923.2) ほか



(写真1)

左から3番目『死の勝利』
(写真提供:新潮社)



(写真2)

常設展示されている作家の12人の本を「見る」。

芥川龍之介『傀儡師』(1919.1) (写真3)

三島由紀夫『春の雪』(1969.1) (写真4) ほか



(写真3)



(写真4)



(写真5)

(写真提供:新潮社)

ほか、新潮社の「函入り」本についての紹介や「担当編集者の方に聞きました!」「文豪とアルケミスト」文学全集」(写真5)のコーナーも。

展示資料には図書館資料として利用されてきた本が含まれています。そのため、ヤケ、傷み、破れ等がありますが、どうかご理解のほどよろしくお願いします。



佐藤義亮 さとう・ぎりょう

1878.2.18-1951.8.18

出版人。秋田県仙北市角館町(現仙北市)生れ。はじめの名は儀助(ぎすけ)。角館高等小学校卒業後、秋田市の貴善学舎に学ぶ。明治28年3月東京へ出奔、秀英舎(今の大日本印刷)に勤め、かたわら橘香(きっこう)の筆名で文学雑誌「青年文」などに盛んに投書した。明治29年7月新声社(しんせいしゃ)を始めたが、36年9月経営不振のため新声社を譲渡、37年5月新潮社を創立し、文芸雑誌「新潮」を創刊した。(このとき義亮と改名。)早くより海外文学の紹介に努力し、わが国の翻訳文学の向上に尽くした功績は大きい。また大正3年より小型「新潮文庫」を刊行。良書の普及に努めた。著書に「生きる力」(昭和11年刊)などがある。

(『増補改訂 新潮日本文学辞典』より)

常設展示(2017.12-)

仙北市ゆかりの作家高井有一先生(1932.4.27-2016.10.26)の書齋を、ご遺族から寄贈された蔵書で再現しています。(写真提供:中村輝子氏)

